広 報 誌

DOSHIN

《 同 心 》

No.79

2025.7

社会福祉法人　長岡福祉協会
長岡療育園

広報誌 2025年(令和7年)7月 目次

DOSHIN〈同心〉

短期入所支援の課題 …… 3

各部署報告 …… 4

各委員会活動計画 …… 17

令和６年度　園内研修・勉強会報告 …… 19

令和６年度　園内行事一覧・園内行事報告 …… 20

令和７年度　事業計画概要 …… 21

令和６年度　事業実績概要 …… 22

令和７年度　資金収支予算書 …… 26

令和６年度　決算諸表 …… 27

令和７年度　家族会・守る会分会 …… 28

令和６年度　学会発表・園内研究 …… 29

寄贈・ボランティア …… 31

短期入所支援の課題

長岡療育園　園長　沼　田　　修

当園では、令和４年に新潟県からの委託で新潟県医療的ケア児支援センター“ゆい・にじいろ”を開設しました。主な業務は、重症心身障害児者、医療的ケア児者及びその家族、支援者を対象に、各種の相談、関係機関との連携、支援者の養成などです。開設から３年が経過しました。この間、当事者やご家族からセンターへの相談は非常に多岐にわたっています。その中で各年代を通して、「短期入所を利用したいが、その利用機関がなかなか見つからない。どこか利用できないか。」という相談が多くあります。現在、新潟県内で医療型短期入所を実施している施設が不足しており、相談内容に応えきれない状況があります。

さて、当園では、在宅の重症心身障害児者の支援として、通所支援センター（児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護）をはじめ、医療型短期入所20床、訪問看護／介護などの事業があります。しかし近年、当園でも在宅の重症児者の医療型短期入所希望に応えきれない状況が増えています。

この要因として、第１は医療型短期入所の利用希望者の増加です。医療の進歩により、NICUから経管栄養や人工呼吸器などの医療的ケアをしながら在宅生活に移った医療的ケア児が増加しているためです。第２は、利用者の中で、以前に比べて人工呼吸器などの医療的ケアが多い超重症児や準超重症児の割合が増加したことです。このため、より多くの職員が必要となりました。定まったスタッフ人員では対応が難しい場合もあり、利用病床数の制限をせざるを得なくなっています。特に利用希望の多い週末は受け入れ困難な場合があります。少子高齢化の影響などによる働き手不足もあり、すぐには対応可能な人員を増やすことも困難な状況です。

この状況を改善するためには、人員の確保、職員個々のスキルアップ、医療設備の整備の努力することが必要です。また、医療的ケア児支援センターの機能を活用して、県内の医療機関、福祉機関や行政機関などすべての支援機関と連携しながら、機能分担をはかり、重症児者施設としての役割を果たしていくことも重要であると考えています。

現在、医療、福祉は厳しい時代になりつつありますが、今後は重症児施設としては在宅重症児者の医療と療育・生活向上のために努力していく必要があります。皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

各部署報告

看護部

＜1病棟＞

1．年間目標

⑴　利用者の健康管理と事故防止に努める
⑵　療育活動の充実を図る
⑶　ショートステイ業務の円滑化を図る
⑷　職員の資質向上に努める

2．具体的実施要項・内容

⑴　①異常の早期発見に努め、適切に対応する。
②利用者の健康状態把握と情報の共有に努め、健康を維持する。
③職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。
④感染対策の徹底を図る。

⑵　①個別支援計画に即した個別のサービスを提供する。
②各自、責任をもって個別支援計画の見直し・評価を行い、情報を共有する。
③時間を有効活用し、計画性をもって療育活動を充実させる。

⑶　①ショートステイ利用者の情報を共有し、安全で安心できる支援を検討し提供する。
②ショートステイ利用状況に応じた支援体制を整える。

⑷　①部署目標を意識し、職員一人一人が責任ある行動とり、業務にあたる。
②倫理観を養い、利用者の立場に立って支援していく。
③園内外の研修に自主参加するなど積極的に自己学習し、知識・技術の向上を目指す。

3．令和６年度の反省点・問題点

⑴　職員間で情報を共有し異常の早期発見に努めた。健康上の問題が発生した際には、医師やリハビリスタッフと連携しながら早期に対応し健康管理に努めた。７月に利用者10名が新型コロナウイルスに罹患。職員は１名に留まり、感染判明時の初動は徹底できたと思われたが、職員が感染源・媒介者とならないよう、平時の感染対策が課題としてあがった。今年度、骨折が２件発生し行政報告をしている。事故発生時には速やかに原因究明と再発防止策を講じ、事故防止に努めた。職種や経験値により医療安全に対する意識や危険予測・回避能力に個人差がある。現場での注意喚起や教育・研修等を通して、さらに安全意識の向上を図れるよう、取り組みを継続していく。

⑵　昨年度同様、生活支援は担当者を中心に立案した支援計画に基づき支援してきた。外出や行事については、感染対策上の規制緩和に伴い、時間や内容等、より個々に合った支援が提供できるよう準備し実践した。個別活動では、昨年度取り入れた作業療法士との活動方法に担当者が介入したことで、情報共有や相談等の内容が充実し、日常支援に　げることもできた。次年度は余暇活動支援の機会が増やせるよう、計画性をもって取り組んでいきたい。

⑶　今年度は、看護師だけでなく育生職員を固定で配置したことで、情報共有がよりスムーズとなり、業務も円滑に進んだ。ショートステイ担当者中心に、安全への配慮を検討しながら、支援体制を整えることができた。

⑷　今年度も、定期的な倫理検討会で日々の支援を見直す機会を設けてきた。こういった取り組みを継続する中で、職員の意識は年々向上してきているように感じる。今後も、検討会や教育・研修の機会を設け、職員の資質向上に繋げていきたい。

＜２病棟＞

１．年間目標

⑴　利用者の健康管理と事故防止に努める

⑵　療育活動の充実を図る

⑶　職員の資質向上に努める

２．具体的実施要項・内容

⑴　①入所者個々の健康状態把握と、情報の共有に努め健康を維持する。

②異常の早期発見に努め、適切に対応する。

③職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。常に、おこりうる事態を予測しながら業務に取り組む。

④感染対策に努める。

⑵　①個別支援計画の見直し、評価を行い、個々に合ったより良いサービスを提供する。

②各自責任をもって個別支援計画を展開し、療育活動に取り組む。

③個々の支援計画を共通理解し、多職種連携しながら利用者本位の支援を実践する。

⑶　①職員一人一人が業務目標を明確にし、目標達成に向け業務に取り組む。

②他職種連携し、カンファレンスを実施する。

③常に、倫理的配慮を考慮した行動をとる。

④積極的に研修等に参加し、知識の習得、技術の向上を目指す。

３．令和６年度の反省点・問題点

⑴　利用者の健康管理と事故防止に努める

入所者の高齢化・重症化により、他科受診が増えている。また、今年度、骨折３件、誤薬１件、転倒による抜歯１件発生し行政報告した。事故発生後、原因究明し危険を予測した関わりを強化した。また、12月に新型コロナ感染症流行し、入所者29名、職員７名が罹患した。普段からの感染対策を職員一人一人が意識し行動することを、今後も徹底していく。今後も普段と違う変化に気付けるよう職員間で情報を共有し、異常の早期発見に努めていく。

⑵　療育活動の充実を図る

担当が主となり個別支援計画を評価している。リハビリ職員とも情報共有し、個別支援計画に沿った関わりを実施、評価した。感染状況にもよるが、テラスで過ごすことや、屋外に散歩に行くことも増え日常生活の充実につながっていると考えている。外出の他、カラオケ大会を行い職員、入所者と大盛り上がりで開催できた。引き続き、個々にあった活動を継続していく。

⑶　職員の資質向上に努める

定期的な倫理検討では、「プライバシーの保護」「環境整備」「療育活動を充実するために」などについて意見交換し、業務に反映した。また、障害者虐待防止の勉強会では、自身の行動を振り返り職員同士で注意しあえる関係づくりに努めた。

研修や勉強会への参加には個人差があるが、そこで得た知識を共有し今後も職員の資質向上に努めていく。

＜３病棟＞

１．年間目標

⑴　利用者の健康管理と事故防止に努める
⑵　ショートステイ業務を円滑に実施する
⑶　療育の充実を図る
⑷　倫理観を持って業務に励む
⑸　感染予防対策に努める

２．具体的実施要項・内容

⑴　①利用者の健康状態把握と情報の共有に努め健康を維持する。
②異常の早期発見に努め適切に対応する。
③個々の援助方法を確認・把握すると共に適宜評価と見直しを行い安全に生活支援する。
④職員の医療安全に対する意識を向上し、事故防止に努める。事故報告書提出で終わらず職員で共有し再発防止に努める。

⑵　①利用者の情報を共有し、突発的事態においても受け入れ体制を整え安全に過ごせるように支援する。
②他部署、地域、家族との連携を強化し、利用者の状況把握に努める。
③物品整理に努め、返し忘れ、返し間違いがないよう徹底する。

⑶　①個別支援計画に即した個別のサービスを充実させる。
②個別支援計画の見直し・評価を徹底し、スタッフ間で情報を共有する。
③日常の中で、楽しみが増えるような関わりを増やしていく。

⑷　①職員一人一人が、利用者の尊厳を理解し、関われるような勉強会の企画。
②スタッフが様々なことを言い合える環境づくり。
③チームカンファレンスの充実。

⑸　①あらゆる感染症に対して、その時々の感染対策を実施する。
②手指衛生（手洗い、手指消毒等）、マスクやゴーグルの使用、適時換気の実施を徹底する。
③発熱者に対しては、速やかに隔離を実施する。

３．令和６年度の反省点・問題点

⑴　今年度も、悪性腫瘍や全身状態の悪化で、看取りを行ったケースがあったが、いずれも医師とチームスタッフが連携し、家族への対応も含め、対応できていたと思う。引き続き、観察を徹底し、利用者の体調管理や利用者の状態変化に敏感になり、担当医師やチームスタッフで連携し、利用者の体調管理に努めていく。

⑵　昨年度に引きつづき、医療的ケアのある利用者が多い現状にある。家族のニーズに対応しつつ、ショートステイの利用人数も含め、安全にお預かりできるような体制を地域連携やショートステイのスタッフと共に考えていきたい。内服薬の返却忘れ、返却間違いが何件か発生した。改めて、マニュアルの徹底を呼び掛けていく必要がある。

⑶　今年度も「個々に合った療育活動を看護職、育生職関係なく協力し提供していく」という事を目標に行ってきた。今年度は看護、育生で療育担当を付け、勉強会の実施や、療育を積極的に行ってもらった。その働きかけのおかげで、看護職も利用者へ療育を実施する時間が増えてきた。今後も継続して働きかけを行っていきたい。

⑷　今年度も倫理検討会を通し、職員一人一人が倫理について考える機会が定期的にあったと感じる。来年度も、病棟内の倫理的問題と向き合い、病棟全体で改善に向けた取り組みを行っていきたい。

⑸　年度末の12月に、入所者５名のコロナウイルス感染症にて、約２週間の病棟閉鎖となってしまった。更に、今年度はＲＳウイルスなどの感染症も他病棟で流行し、改めて感染対策の重要性を感じた。引き続き、様々な感染対策を行っていく必要がある。

＜通園＞

１．年間目標

⑴　個別支援計画に基づくサービスの提供
⑵　利用者の健康管理及び療育活動の充実
⑶　家族支援と主治医、関係部署、関係機関との連絡体制の強化

２．具体的実施要項・内容

⑴　身体状況、発達段階に沿った個別支援計画の作成
　　半年毎に評価し家族との情報共有を行う。
⑵　家族との情報交換を密に行い健康状態の把握に努める。
　　異常時の早期発見に努める。
　　個別支援計画に沿った療育活動の提供を行う。
⑶　主治医、家族との連絡体制を強化し身体状況の把握・管理に努める。
　　関係機関と連絡を密に行い、利用者のニーズや問題解決に努める。

３．令和６年度の反省点・問題点

令和６年度年間目標

⑴　個別支援計画に基づくサービスの提供、利用者の健康及び活動の充実
⑵　ご家族、主治医、各部署、関係機関との連携体制の強化
　　係各部署、関係機関との連携
⑶　緊急時の対応について勉強会の実施
⑷　安全な送迎の実施
⑸　感染症発生時の対応の策定

反省・問題点

⑴　身体状況、発達段階に沿った個別支援計画をもとに
　　サービスの提供を実施した。
　　呼吸状態やてんかん発作に配慮し体調を考慮した活動
　　の提供を行った。
⑵　利用者の全身状態の観察に努め、必要時には早めの
　　受診を促した。
　　３～６ヶ月に一度、外来での主治医受診を促した。
　　ケアステーション、リハビリスタッフとの情報共有に努めた。
⑶　緊急時の対応、アンビューの使い方について研修を行った。
　　送迎時、車内での緊急時対応について研修を行った。
⑷　ＡＬＢＬＯ仕様での安全運転管理体制の徹底、運転前後の車両点検で走行中のトラブルは
　　なかった。
⑸　コロナウイルス、インフルエンザ感染症もあったが広がらずに収束した。

＜ケアステーション魚沼＞

１．年間目標

⑴　利用者の増加（１日平均の利用者数13名以上）

⑵　個別支援計画の充実

⑶　地域社会との関りを大切にする

２．具体的実施要項・内容

⑴　新規利用者獲得のため、特別支援学校や、相談支援事業所、基幹病院や市町村との連携強化を図る。

⑵　ケース検討を通して個別支援計画の見直しを行い、計画に沿った支援の実施や内容の充実に努める。

⑶　地域の行事参加や社会資源を利用して外出する機会を設け、感染症の状況を勘案しながら地域住民との交流を積極的に取り入れていく。

３．令和６年度の反省点・問題点

⑴　令和７年２月末での平均利用者数は、12.3名。短期入所利用、体調不良による入院等の理由に加え、今年度は感染症流行の影響が大きく、目標にしていた13名を大きく下回った。昨年度の12.4名よりも下回る可能性もあり、感染症防止対策を徹底していく必要がある。
また、１名の契約終了者（入所のため）もあり、登録者数は33名に減少した。
近隣市町村への送迎も継続中。今後も利用者数の維持・増加のために、ハイエース３台での送迎体制は必須。
常時医療行為を必要とする利用者が増え、重症化してきている。今後も、看護師の確保や介護職員等による喀痰吸引研修等の受講を継続し、利用者を受け入れる体制を維持していく。
新規利用者獲得のため、魚沼市だけでなく、南魚沼市・十日町市も含めた各機関との連携強化を図っていく必要がある。

⑵　看護師、介護福祉士、保育士、理学療法士、社会福祉士の各視点から個別支援計画の内容を検討し、見直しを行っている。今後も事業所内での検討だけでなく、通園、ケアステーション県央、他事業所とも連携し、個別支援の質を向上していきたい。来年度は個別支援計画書の書式も新しくなるため、新しい視点にも着目しながら内容の総点検を実施していきたい。制度改正で導入された意思決定支援等にも着目しながら必要な見直しを行っていく。

⑶　コロナ禍以前は、地域の行事や作品展、お祭り等に積極的に参加し地域住民と交流していた。今年度は地域の文化祭への出展・見学、福祉フェスティバルへの出店を実施した。今後も感染予防に留意しながら行事参加や、施設周辺の散策、外出を実施し、地域住民との交流を図っていきたい。また、少人数での外出も再開し、利用者の社会参加や余暇支援にもつなげていきたい。

＜ケアステーション県央＞

１．年間目標

⑴　利用者登録増と延利用者人数の増加

⑵　療育活動や個別活動の充実

⑶　地域連携と家族支援の充実

２．具体的実施要項・内容

⑴　利用曜日や送迎､入浴等のサービス調整を行い､現利用者の利用できる回数の増加を目指す。

⑵　個別支援計画の評価と見直しを適時行い、計画内容に沿った活動を提供する。

⑶　関係機関との連携を密に行い、相談支援等を通じてニーズの把握や利用者の抱える問題解決につなげる。

⑷　児発、放デイ利用者家族の座談会を実施することにより、家族に向けた勉強会や情報交換の場を提供し家族支援の充実を図る。

３．令和６年度の反省点・問題点

令和６年度年間目標

⑴　延利用者人数を増加させ、一日平均18名以上の利用を目指す。

⑵　療育活動や個別活動の充実を図る。

反省点・問題点

⑴　令和６年各曜日の利用登録者数平均18.8名（令和５年より平均1.0名減)。
令和６年１月～令和６年12月までの一日平均利用者数は14.4名（令和５年より0.3名減)。
生活介護利用者の利用日は増加、新規契約無し。
放課後等デイサービス新規契約２名。児童発達支援１名。
今後も継続して新規利用者増に向けた取り組みを継続していく。

⑵　療育活動は粗大運動を中心に取り組み、全身で感じることのできる刺激を体験した。季節行事として制作活動や感触遊びを行い､季節を感じられるような活動を行ってきた。また、療育活動の中でも音楽を活用し活動を実施する事で利用者の反応や良い表情が多く引き出せた。
午後はミュージックケア等の音楽を使用したリトミック活動を実施。

その他

緊急時の対応マニュアルの見直しや、火災や水害想定の避難訓練、マニュアルに沿った諸々の勉強会を継続していく必要がある。

＜地域連携室＞

昨年度の目標

1　療育支援体制の整備

2　障害児者のニーズに応じた生活支援

3　重症児者･医療的ケア児者の支援体制の整備（新潟県医療的ケア児支援センター）

具体策

1　相談支援

在宅の障害児者の相談対応、障害児等療育支援事業の実施。

＊昨年度実績　電話０件、来所31件、訪問17件

2　計画相談支援・障害児相談支援

相談員が家庭訪問等を行い、サービス提供事業所と連携しながら、利用者の発達状況に合わせて支援利用計画を作成する。その後も定期的にモニタリングを行う。

＊昨年度実績　電話104件、来所431件、訪問347件、会議214件

3　新潟県医療的ケア児支援センターゆい・にじいろ

重症心身障害児者・医療的ケア児者を対象に家族・関係者に対する助言や支援体制の構築に向けたサポート、支援者の養成を行う。

＊昨年度実績　相談件数142件、会議77件、研修会８件、講師７件、
その他（学校看護師巡回相談、家族の集い等）13件

結果

1　上越・南魚沼地域への専門職派遣、冬期間における魚沼地域へのリハビリ派遣、外来療育教室を実施した。

2　長岡市の自立支援協議会に参加し、相談支援体制の協議を行った。チームカンファレンスでケース報告、ケース検討、勉強会を実施した。医療的ケア児等コーディネーター養成研修、強度行動障害支援者養成研修に参加し資質向上を図った。

3　令和４年度より県の委託を受けて、県下に１か所の医療的ケア児支援センターとして活動している。県内のご家族･関係者より相談や問い合わせがあり、助言や情報提供、個別ケースのバックアップ、施設支援などを行った。また、医療的ケア児等コーディネーターの養成など各種研修会を実施し、支援者を養成した。

今年度の目標

1　療育支援体制の整備

2　障害児者のニーズに応じた生活支援

3　県下における重症心身障害児者・医療的ケア児者の支援体制の整備
（新潟県医療的ケア児支援センター）

医務部

＜リハビリテーション＞

昨年度の目標

1　各部門の訓練内容の充実と部門内外の連携を図る。
2　研修、研究活動にて利用者サービスに還元する。
3　効率的なカルテ、リハビリテーション実施計画書の記録や確実な予約・単位入力の徹底を図る。

具体策

1　提供しているサービスの効果・変化を意識し修正してリハビリを実施する。
　病棟スタッフとの連携、介入方法の検討をケースカンファレンスに出席し行う。
　地域の発達教室などへの指導・協力と特別支援学校などへの研修指導会へは継続し行う。
　外来利用者には保護者との関わりで地域連携室との連携と協力体制を継続して行う。
2　リハビリスタッフの意識の統一、経験・能力に応じたレベルアップを行う。
3　効率的で適切なカルテ記録、実施計画書の作成、予約、単位の入力を促す。

結果

1　他の事業所、保育園や学校などのスタッフとの連携がより増加した。そのため効率的な関わり方の検討が必要である。
2　外部の研修会参加も増え、スタッフ間の知識・技術の伝達もより増している。
3　カルテ記録や実施計画書の記録時間もリハビリ実施人数の増加で取りにくくなってきている。また、年度内のスタッフ数減少もあり記録時間の確保も難しくなっていた。

今年度の目標

1　リハビリ各部門の内容の充実と病棟や地域関係機関との連携を図る。
2　研修会参加、研究活動にて利用者のサービス向上に還元する。
3　より効率的なカルテの記録やリハビリ実施計画書の作成、リハビリ実施頻度の検討と患者予約、実施単位入力の徹底を図る。

＜薬局＞

昨年度の目標

1　薬局内業務の遂行化
2　院内医薬品集の改訂
3　関係部署との連携

具体策

1　スタッフ全員が薬局の業務を把握できるように担当の業務を分散化する。
2　過去の院内医薬品集を見直し、改訂する。
3　関係部署との「報・連・相」を常に心がけ、情報を共有し、業務の円滑化を図る。

結果

医薬品は出来上がり順次更新している。

今年度の目標

1　薬局内業務の遂行化
2　院内医薬品集の更新
3　関係部署との連携

＜Ｘ線室＞

昨年度の目標

1　良質な医療画像を提供する
2　放射線の安全管理を行う

具体例

1　マニュアルに従って検査を行う。
2　勉強会等に参加して技術や知識の向上をめざす。
3　機器の点検を行い保守に努める。

結果

1　マニュアルの見直しを行い、撮影条件を最適化した。
2　園外および園内の研修会に参加し、知識を更新することができた。
3　技師による日常点検と業者による定期点検を行い、装置の保守に努めることにより、安全にＸ線検査ができた。

今年度の目標

1　良質な医療画像を提供する
2　放射線の安全管理を行う

＜検査＞

昨年度の目標

1　生理機能検査と検体検査の円滑な実施及び各部署と連携を図りながら業務を進める
2　検査機器の正確な操作と保守管理を行う

具体策

1　各検査機器の適正な活用を行う。
2　休日の検査がスムーズに行えるように、他部署への周知・連携を図る。
3　検査機器の保守管理標準作業書及び保守管理作業日誌、測定作業日誌、精度管理台帳を活用し、保守管理を実施する。

結果

1　脳波計は病棟内で検査を実施したり、ビデオカメラとの同時記録をしたりと様々な活用を行い、利用者の方の検査に役立てられた。
2　新規血球計数装置が年度末に導入され、他部署への勉強会を実施し、休日の検査が滞らないようにした。
3　新規血球計数装置の各種作業日誌、標準作業書、精度管理台帳を作成・記入し、保守管理を行えた。

今年度の目標

1　生理機能検査と検体検査の円滑な実施及び各部署と連携を図りながら業務を進める
2　検査機器の正確な操作と保守管理を行う

＜心理検査＞

昨年度の目標

1　信頼性の高い心理検査の実施に努める
2　検査結果に基づいたアセスメントを行う
3　保護者の相談に応じ、助言する

具体策

1　マニュアルに従って、厳格かつ丁寧な検査の実施を心掛ける。算出時やカルテ記載時にミスが無いよう心掛ける。慣れた検査も見直しを徹底する。
2　検査結果に基づいた論理的なアセスメントを行い、カルテに記載する。アセスメント技術向上のための研鑽を怠らない。
3　保護者の相談に応じ、発達や障害についての不安の軽減を図る。必要に応じて関係機関との連携を図る。

結果

効率的に業務を行うことができ、患者様の検査待ち期間を短縮できた。検査に関する研修を受け、アセスメント技術向上に努めた。初診の患者様へ検査結果のフィードバックをしたり、不安抱えている保護者の相談対応を行ったりし、丁寧な対応ができた。

件数は少ないが、個別にソーシャルスキルトレーニングを実施することができ、問題を抱える児と家族を支援することができた。

今年度の目標

1　信頼性の高い心理検査の実施に努める
2　検査結果に基づいたアセスメントを行う
3　保護者の相談に応じ、助言する

＜栄養課＞

令和６年度

昨年度の目標

1　利用者の健康増進と豊かな食生活を目指す
2　職員の資質向上を図り、利用者への食事に還元する
3　衛生管理の徹底を図る
4　災害時の対応強化

具体策

1　栄養ケアの向上
　多職種との迅速な対応を図れるよう取り組む。
2　研修会・勉強会への参加
　重症児者に適した食事を理解するため勉強会の実施。
　個々の目標を明確にし、目標達成に向けて取り組む。
3　大量調理衛生管理マニュアルに基づき、衛生管理を徹底し食中毒防止に努める。
　マニュアルの読み合わせ、衛生管理の意識を高め事故防止に努める、自己の体調管理の徹底。
4　災害対応マニュアルの読み合わせ、使用備品の確認と準備。多職種との連携を図り、想定訓練を行う。

結果

1　多職種との連携により、栄養上の問題を迅速に対応できた入所者・利用者のライフステージに合わせた摂食・嚥下に応じた献立の立案と給与栄養量の確保（主に微量元素）を工夫し、今後も栄養状態の把握に留意しながら対応して行く。
2　勉強会として、よりよい重症児者の食事を目指す目的で２班に分かれて取り組み食事に還元した。
3　マニュアルに基づき、その都度声掛けを行い衛生管理の意識を高め仕事に取り組んだ。
　作業工程を見直し、再度衛生管理・誤配膳を徹底した。
4　いろいろな場面での想定訓練を行った。
　災害食の見直しができ、来年度につなげることが出来た。

今年度の目標

1　利用者の健康増進と豊かな食生活を目指す
2　職員の資質向上を図り、利用者への食事に還元する
3　衛生管理の徹底と感染予防を図る
4　災害時の対応強化

療育園祭

花火大会

運動会

新年祝う会

事務部

＜総務課＞

昨年度の目標

1　人材の育成と業務伝達
2　関係部署との連携強化
3　診療報酬改定・障害福祉サービス等報酬改定対応
4　医師働き方改革対応・インボイス制度の各部署周知対応

具体策

1　各自業務目標を設定し、スキルアップを図る。仕事の見える化・手伝える体制作り。
2　関係部署と情報を共有し、業務の円滑化を図る。
3　研修、行政の説明会への参加し、報酬改定への対応
4　医局への制度説明、システムの修正、税制についての職員への説明。

結果

1　事務職員としてのスキルアップは図れた。
2　他部署との連携は図れた。
3　関係部署・他部署の連携で物品購入・入替などがうまく進められた。
4　医局のシステムは混乱することなくできた。税務制度の周知は今後も図っていく。

今年度の目標

1　人材の育成と業務伝達
2　関係部署との連携強化
3　診療報酬改定・障害福祉サービス等報酬改定対応
4　働き方改革対応等の各部署への再周知対応

＜施設サービス＞

昨年度の目標

1　入所者の安全を守る為に、設備等の適切な管理に努める
2　人材の育成
3　感染予防の為に、より一層洗濯・清掃業務の清潔を心掛ける

具体策

1　日々の点検をより確実にし、適切な設備管理を推進する。
2　業務や日々の点検の伝達を行い、業務水準を上げていく。
3　適切な洗濯・清掃業務により清潔な環境つくりを推進する。

結果

1　人員が不足した時も部内で業務を分担しフォローし合い滞ることなく行った。
2　それぞれの得意を活かした育成・業務が出来きた。人員も増員し、以前よりサービス水準は上がった。
3　特に問題なく、園内外の清潔な環境づくりができた。

今年度の目標

1　入所者の安全を守る為に、設備等の適切な管理に努める
2　人材の育成
3　蛍光灯から省エネ器具のLEDへの入替を継続的に行い、エネルギー使用量の削減を図る

各委員会の活動計画

委員会名		具体的活動要綱
医療安全対策委員会	医療機器安全委員会	・医療機器の安全管理のための体制の確保 ・医療ガスの事故防止と効率的な供給システムの確保 ・医療機器・医療ガスを安全に使用する為の勉強会の実施 （４回/年） ・保守点検に関する計画を策定し保守点検を実施
	医薬品安全委員会	１．各種手順書・マニュアルの見直し ２．ハイリスク薬・禁忌薬の見直し ３．研修会の実施 ４．病棟・薬局における医薬品管理
	安全衛生委員会	・職員健康診断（２回/年）の実施 ・職員ストレスチェックの実施（１回/年） ・アンケート調査による職員の痛みの状況把握、ストレッチ体操の推進 ・腰部保護ベルトの適正使用、ノーリフトケアの推進 ・職場内の定期的な巡視・指導 ・労働災害事例における再発防止策の検討 ・安全衛生に関する勉強会の実施
	感染対策委員会	１．定期的な保菌者の確認 ２．抗菌剤使用状況の確認 ３．勉強会の実施（２-３回/年）、研修会参加・伝達 ４．予防接種の実施及び感染者対応の徹底 ５．医療廃棄物の管理（特別管理産業廃棄物の管理） ６．園内ラウンドの実施 ７．手洗い・うがい・マスク・ゴーグル着用の声掛けの継続
	医療事故防止委員会	１．事故報告書による自己分析・調査・フィードバック ２．各病棟及び部署の巡回し、業務手順のチェックと確認 ３．研修会の実施　２回/年 ４．事故防止運動の実施
	褥瘡委員会	１．褥瘡形成者、形成注意者の把握 ２．入所者個々の危険因子に対し、援助計画の作成と実施 ３．ＮＳＴと連携し栄養状態の把握と改善 ４．毎月褥瘡新聞（褥瘡保持者、リスク者、褥瘡対策掲載）発行、勉強会実施

委員会名	具体的活動要綱
教育研修委員会	１．園内研修、園外研修、自主勉強会、研究活動の積極的実践及び参加を働きかけ、職員のスキルアップを支援する ２．研修の情報提供と参加促進を図り、職員の自律的キャリアアップを支援する
防災委員会	１．毎月の訓練の実施 ２．ＢＣＰの修正と、計画に沿った訓練の実施 ３．職員の防火・防災の勉強会を実施 ４．法人内他施設、町内会と共同訓練を行い協力体制を図る ５．消火栓・消火器等の防火用具を職員に説明し訓練を実施 ６．定期的な防災設備の点検
給食委員会（NST）	１．利用者への継続的なアセスメントの実施・栄養改善策の検討 ２．経管栄養剤・栄養補助食品等の情報共有 ３．栄養状態や食事に関する事項の報告、検討 ４．栄養、食事に関連する勉強会の実施
広報委員会	１．園内報　どうしん　56号　３月発刊予定 ２．広報誌（園外報）　DOSHIN　No.79　７月発刊予定
予算委員会	１．整備品目を５つに分類し長期・中期・短期的に購入整備計画を立てる ２．補助金収入を照らし合わせ予算要望品を購入 ３．外来・医局エリア照明LED化工事
虐待防止・ 身体拘束最小化委員会	１．虐待状況（身体拘束）の確認と対策状況の検討 ２．研修会の実施 ３．虐待（身体拘束）に関する規定の整備 ４．虐待（身体拘束）の訴えの受付と検討、対策 ５．身体拘束状況の巡回チェック
個人情報保護委員会	１．施設内の個人情報保護の状況の確認 ２．個人情報保護に関する訴えの受付と対策の検討 ３．個人情報に関する研修の実施 ４．その他個人情報保護に関する事項に対しての活動
診療録管理委員会	１．診療録の保管・管理についての確認 ２．退院時要約の作成状況についての報告 ３．疾病統計の報告 ４．その他、診療録に関する事
コーディング委員会	１．ＤＰＣデータの作成 ２．適切なコーディングに関しての報告と確認 ３．ＤＰＣ調査についての確認・報告 ４．その他、コーディングに関する事

令和６年度　研修会・勉強会

月/日	曜日	時間	開催担当	参加人数	内容
4月～５月			感染対策委員会	全職員	チェッカーローションを使用した手洗いチェック
5/24	金	17:15～18:00	医療機器委員会	20名	コンフォートカフⅡ取り扱い説明
6/14	金	17:15～17:45	医療ガス委員会	14名	医療ガス保安管理講習
5/30、31、6/3、4		17:15～18:00	虐待防止委員会	138名	虐待(身体拘束)への対応と支援　他、資料確認66名
6/8	土	10:30～11:00	中堅自主勉強会	７名	計画相談の報酬改定について
6/18			看護師	12名	CPRレクチャー
6/24,28	月・金	15:30～	看護主任	24名	３病棟の緊急時の初動について　他、資料確認27名
7/10、17、24	水	17:15～17:38	感染対策委員会	121名	吐物処理の仕方
7/3	水	17:10～18:30	研修委員	８名	介護基礎研修（移動・移乗の基本的理解について）
7/16	火	17:10～18:00	研修委員	6名	介護基礎研修（清潔保持・入浴・排泄・食事について）
7/26	金	17:15～18:15	研修委員	４名	新人研修（長岡療育園職員に望むこと・医療安全）
7/29	月	17:15～18:00	研修委員	４名	新人研修（個人情報保護）
7/30	火	17:15～18:15	研修委員	４名	新人研修（感染対策・職員の健康管理）
7/31	水	17:15～18:15	研修委員・Ns主任	14名	看護記録について
8/19、21、23、26		17:15～17:45	事故防止委員会	155名	５Ｓの勧め
9/10	火	17:15～17:45	安全衛生委員会	31名	腰痛予防対策
9/11	水	13:30～14:30	研修委員	63名	発達講座『排便異常（便秘、下痢、腹満）小児と大人』 ※10/9 録画視聴12名含
9/26	木	17:15～17:35	中堅自主勉強会	12名	アナフィラキシーについて (アナフィラキシーが起きた時の対応を知ろう)
10/3	水	17:15～17:45	医療機器安全委員会	11名	各種ポンプの取り扱いについて
10/28～11/5			医療機器委員会	133名	診療用放射線の安全利用のために
11/26	火	17:15～17:45	研修委員	35名	園内研修（防犯：さすまた使用方法）
12/14	土		看護主任	8名	看護記録について（動画視聴）
3/25	火	17:15～17:45	医療機器安全委員会	15名	パルスオキシメーターについて
6/22	土	9:00～12:00	目的別研修	７名	摂食（講義・実技）
7/4	木	17:15～17:45	中堅自主勉強会	10名	ハイエースへの車椅子の取り付け方
8/13	火		中堅自主勉強会	8名	毎日の検温を日課からケアにかえませんか？
9/19	木	17:15～17:45	中堅自主勉強会	10名	PDCAサイクルと個別支援計画
9/28	土	9:00～	目的別研修	10名	ポジショニング～呼吸管理をする為に～
10/11	金		中堅自主勉強会	8名	仕事をするうえで大切なことは何ですか？
10/30	水		中堅自主勉強会	12名	利用者・職員の睡眠の質と生活の向上
11/9	土	9:00～12:00	目的別研修	6名	肺理学療法と姿勢管理
11/20、27、12/4	水	17:15～17:30	感染対策委員会	107名	適切なPPE使用方法について
12/7	土	9:00～12:00	目的別研修	9名	感覚運動遊び
12/19	木	17:00～17:45	中堅自主勉強会	10名	目と手の協調について
10/2	水	17:00～17:45	栄養課	6名	重症児者の食事の知識を深める
1/30	木	17:15～17:50	中堅自主勉強会	10名	簡単にできる手遊びについて
2/3	月	17:15～17:40	感染対策委員会	22名	食中毒について（他、資料回覧全員）
2/13	木	17:15～17:50	中堅自主勉強会	10名	排便ケア「摘便」について
2/20	木	17:15～17:45	伝達研修	20名程度	ムーブメントセラピーについて
2/25、2/27、28	火・木・金	17:15～17:40	事故防止委員会	134名	骨折について
3/25	水	17:15～17:45	中堅自主勉強会	13名	カニューレについて
3/24、3/27、3/28	月・木・金	17:15～17:30	感染対策委員会	110名	吐物処理の仕方
3月			研修委員会	全職員	個人情報保護について (文章を読み、感想を書いてもらう)

令和６年度　園内行事一覧

月日	行事名	実施場所
５月19日	療育園祭	北側駐車場
７月７日	大運動会	北側駐車場
10月５日	花火大会	北側駐車場
10月19日	在宅交流会	通園
１月19日	新年を祝う会	各病棟

その他
　毎月：誕生会　他、季節の病棟行事

園内行事報告

【療育園祭】
担　当　２病棟　主任

テーマ　長岡療育園45周年をお祝いする

日時・場所
　令和６年５月19日(日)　北側駐車場

活動内容
　10：30　第一部（療育園45周年のお祝いの開会）
　　・園歌斉唱
　　・園長挨拶
　　・家族会会長挨拶
　　・新入所者紹介　４名
　　・長岡療育園のあゆみ
　　・催し物
　11:20　第二部（二十歳のお祝い）
　　・在宅者　３名紹介
　　・催し物
　11:45　閉会　移動開始
　12:15　昼食（各病棟）

入所者140名　在宅10名　家族100名が参加して
北側駐車場で長岡療育園45周年のお祝い・二十歳のお祝いを行いました。
皆様のご協力で無事に療育園祭を実施することが出来ました。
ご家族の皆様、ご協力いただきましてありがとうございました。

令和７年度　事業計画概要

１．運営の基本方針

新潟県における重症心身障害児・者の中核施設としての自覚を持って

⑴　障害者総合支援法の理念に沿って、施設のみならず地域医療・福祉の推進を目指す。

⑵　医療的レベルの質的向上に努め、各専門領域の組織的統合を目指す。

⑶　根拠に基づいた医療と療育を展開し、利用者のＱＯＬ向上を目指す。

２．重点項目と具体的施策

重点項目	具体的な施策
⑴ 医療・福祉人材の確保	・新卒、中途採用者の獲得強化
⑵ 在宅事業の推進	・在宅利用者が当園の在宅サービスを利用しやすくする
⑶ 医療型短期入所の推進	・医療型短期入所サービスの受入数を制限せずに、気軽に利用できるようにする
⑷ 長期入所の安定稼働	・長期入所事業が安定稼働できるよう運営を行う ・新規入所者が速やかに入所決定できるようにする
⑸ 職場環境の整備	・労災の発生を防ぐ ・働き方改革の進んだ、働きやすい環境をつくる ・電気設備のLED化を推進する

３．重点項目と具体的実施方法

重点項目	具体的な施策
⑴ 医療・福祉人材の確保	・看護、福祉系の学校へ新卒採用の働きかけを行う ・インターネットを利用した採用活動を強化
⑵ 在宅事業の推進	・福祉系人材の採用を推進し在宅事業の利便性をよくする
⑶ 医療型短期入所の推進	・医療系、福祉系の採用強化を図り、医療型短期入所サービスの受入数を制限せずに、利用できるようにする
⑷ 長期入所の安定稼働	・新型コロナ感染症等の感染症が発生しない、もしくは発生してもクラスタにならないよう運営を行う ・行政と連携し、速やかに入所決定ができるようにする
⑸ 職場環境の整備	・安全衛生委員会と連携し、「安全」と「衛生」を強化する ・介助機器の導入、労働安全衛生教育の実施を行う ・通園外来棟の電気設備をLED化する

令和６年度　事業実績概要

１．事業概要

当園は、医療法上の病院であり、かつ社会福祉法上の障害児・者入所施設でもある。長期入院、緊急入院等の入院機能と、外来診察、リハビリテーション、訪問看護、医療型短期入所、居宅介護、日中一時支援、生活介護、児童発達支援、放課後デイサービス、新潟県医療的ケア児支援センター事業等の地域在宅支援機能を複合的に展開している新潟県唯一の重症心身障害児者の為の施設である。

２．事業の具体的実施事項

⑴　人材の確保

・新聞、インターネット他、各種人材募集ツールを幅広く利用し、人材を確保

⑵　業務の効率化

・インカムを導入し、職員間の情報共有を図った。

・電子カルテのレスポンス向上で作業の効率化を図った。

⑶　長期入所の安定化と在宅各事業の推進

・職員不足で各部署に適正数の職員配置が行えず、緊急入院や医療型短期入所、その他の在宅事業の利用推進は、計画通りには行えなかった。

・新潟県医療的ケア児支援センター事業は順調に運営できた。

⑷　施設設備の更新

・老朽化した医療機器、ベッドの更新を計画的に行った。

・病棟の電気設備（ＬＥＤ）の入替を行った。

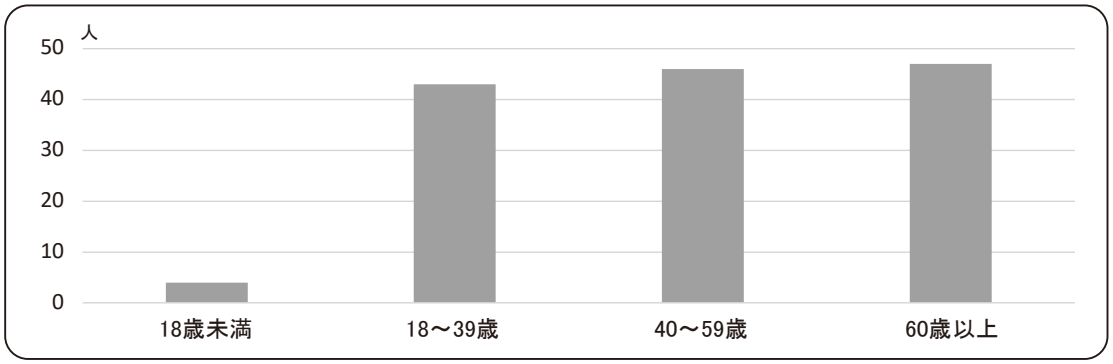
３．年間実績の総括

職員（特に夜勤ができる職員）不足と職員の高齢化が顕著になってきている。この為、人手不足が要因で利用者が当園利用の意向はあっても受入れられない状況になっている。そういった環境の中でも様々な工夫を行い、できるだけの利用者を受入れ、事故なく、利用者のＱＯＬ向上を図れるよう運営した。

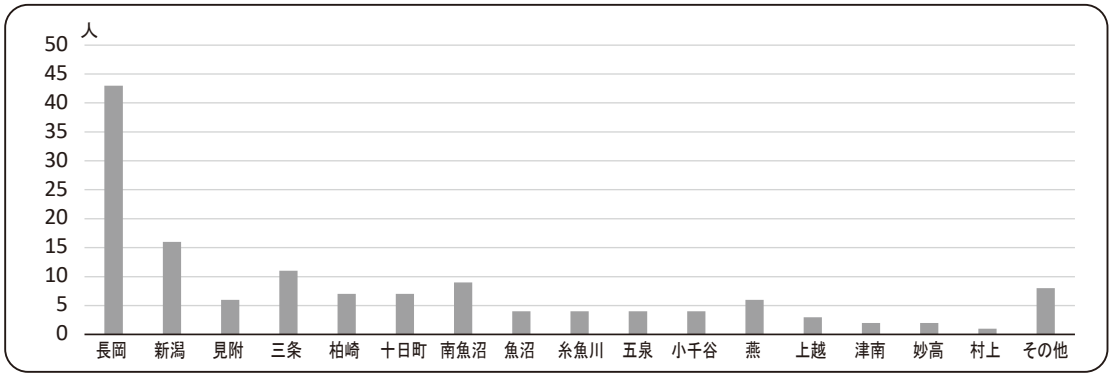
４．令和６年度事業実績データ

⑴　入所部門（Ｒ7.３.31時点）

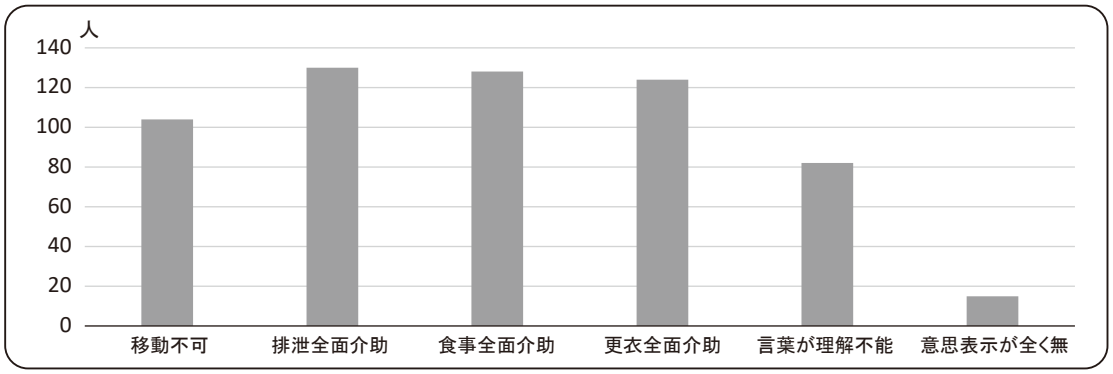
①年齢構成



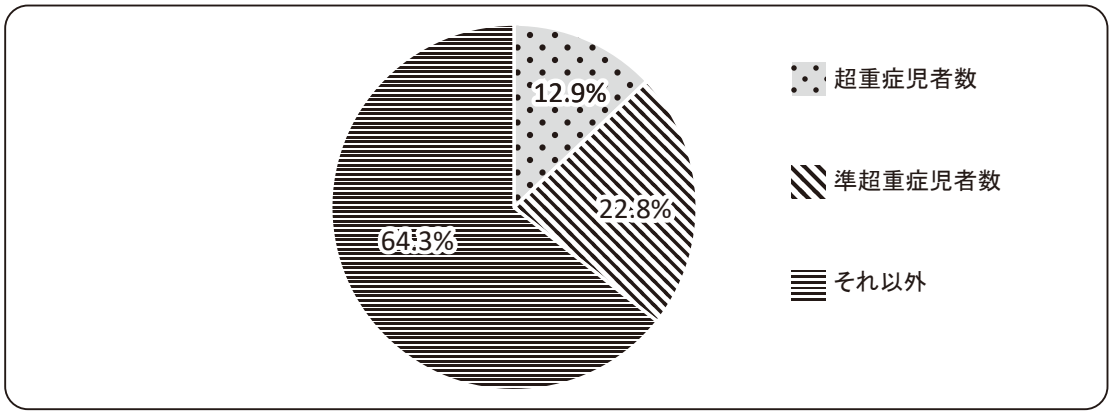
②出身地



③日常生活の自立度

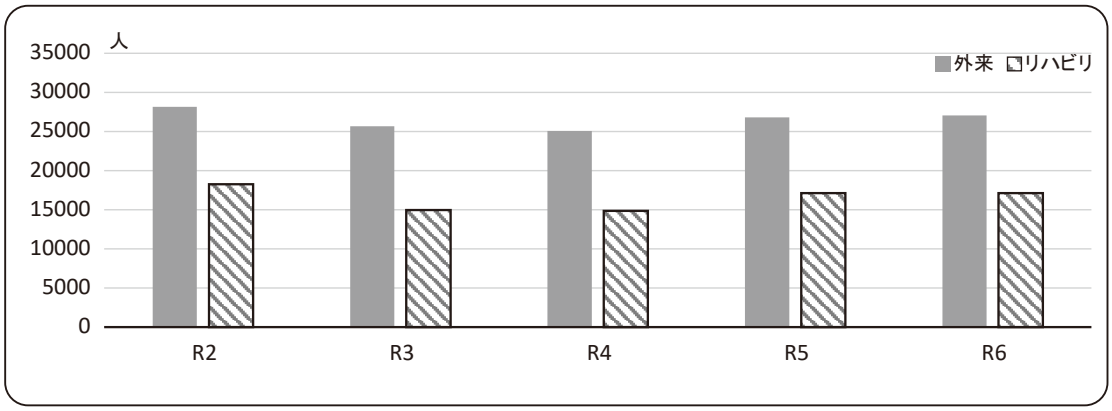


④超・準超重症児者の割合

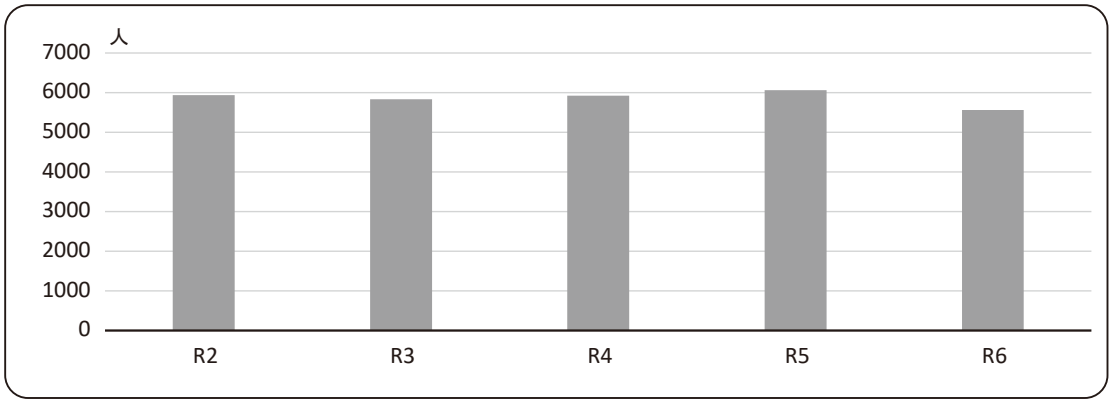


⑵　在宅部門

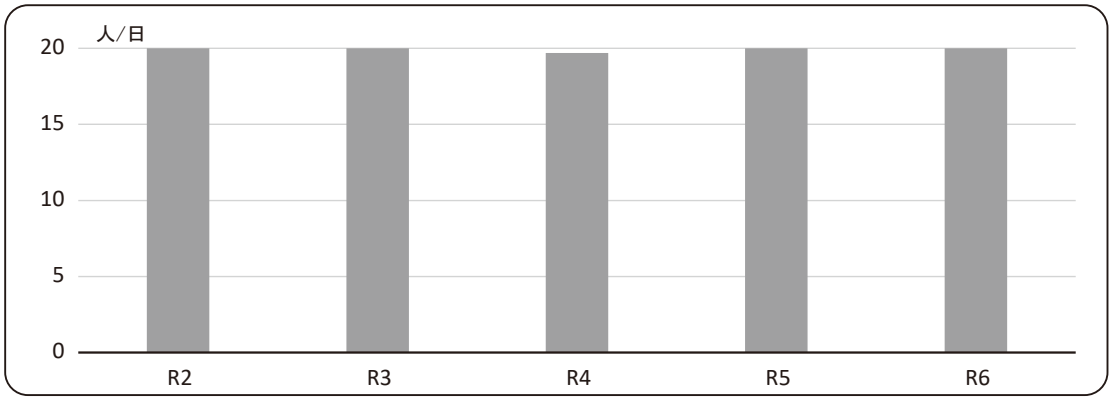
①外来、リハビリ利用者数（人/年）



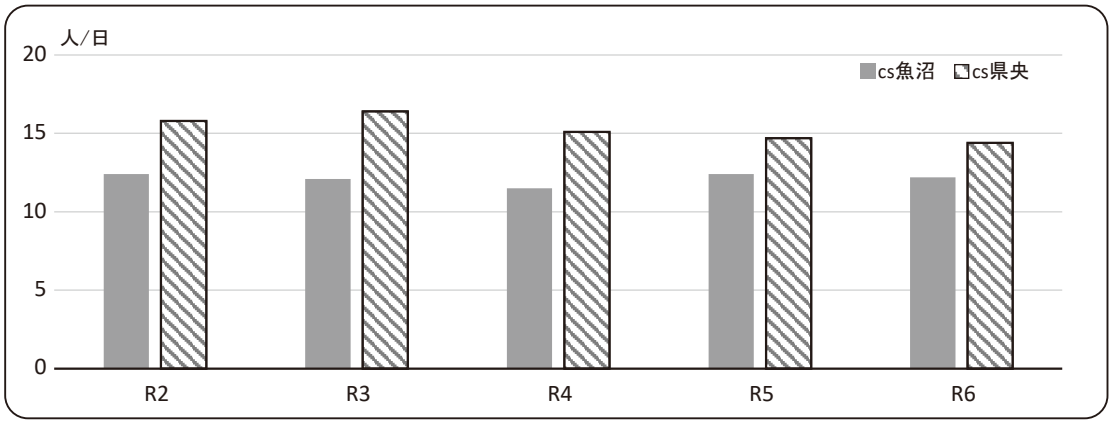
②短期入所者利用者数（人/年）



③年度別通園センター１日平均利用者数（定員　20人/日）



④年度別ケアステーション魚沼・県央１日平均利用者数（定員　20人/日）



５．その他

⑴　防火防災体制の確立

病棟・園内の各部署にて毎月避難・消火の総合防火・防災訓練、その他にＢＣＰに基づく、感染症、地震、原子力の訓練を行った。また、毎年10月に事業団内の関連施設や地域住民、地域消防団、長岡消防署等が参加しての総合合同防災訓練および防災講演会を行い、地域住民と行政、長岡市消防署と一体で総合訓練を行った。

⑵　安全衛生体制の確立

感染対策委員会が中心となり、感染症への対策を行った。その他、医療機器安全対策、委員による医療機器・医薬品等の安全対策、事故防止委員による事故防止、安全衛生委員会による園内の安全衛生対策、働き方改革の推進を行い、職場の安全衛生対策の強化を図った。

⑶　防犯体制の強化

各部署の感染対策とセキュリティ対策の強化を行った。また、ＢＣＰの修正、避難確保計画の修正等を行った。また、職員の安全を守る為、さすまた等の防犯器具の取扱い方の周知徹底（実地研修）や、長岡警察署の警察官から防犯の教育を受けた。

令和７年度　資金収支予算書

自令和７年４月１日　至令和８年３月31日　（単位：千円）

勘　定　科　目	前年度予算額	当初予算額	増　　減
【事業活動による収支】			
障害福祉サービス等事業収入	976,582	997,535	20,953
自立支援給付費収入	862,134	886,235	24,101
障害児施設給付費収入	77,303	78,740	1,437
利用者負担金収入	2,554	2,410	△ 144
特定費用収入	12,340	11,090	△ 1,250
その他の事業収入	22,251	19,060	△ 3,191
医療事業収入	1,427,002	1,455,465	28,463
入院診療収入	1,162,000	1,213,155	51,155
外来診療収入	256,100	241,320	△ 14,780
その他の医療事業収入	8,902	990	△ 7,912
不動産貸付事業収入	3,060	3,078	18
経常経費寄附金収入	120	0	△ 120
受取利息配当金収入	41,119	0	△ 41,119
その他の収入	13,450	8,670	△ 4,780
事業活動収入計(1)	2,461,333	2,464,748	3,415
人件費支出	1,549,441	1,565,267	15,826
事業費支出	410,800	428,438	17,638
事務費支出	168,781	173,745	4,964
利用者負担軽減額	0	0	0
支払利息支出	78	0	△ 78
その他の支出	300	0	△ 300
事業活動支出計(2)	2,129,400	2,167,450	38,050
事業活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	331,933	297,298	△ 34,635
【施設整備等による収支】			
施設整備等収入計(4)	938	0	△ 938
施設整備等支出計(5)	17,021	73,500	56,479
施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)	△ 16,083	△ 73,500	△ 57,417
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	9,223	0	△ 9,223
その他の活動支出計(8)	274,740	0	△ 274,740
その他の活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 265,517	0	265,517
予備費支出(10)	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)＝(3)＋(6)＋(9)－(10)	50,333	223,798	173,465
【資金残高】			
前期末支払資金残高(12)	952,395	946,658	△ 5,737
当期末支払資金残高(11)＋(12)	1,002,728	1,170,456	167,728

令和６年度　貸借対照表

令和７年３月31日現在　　（単位：円）

科　　目	当期残高	前年同月	増　　減
資産の部			
流動資産	846,397,753	838,356,466	8,041,287
現金預金	368,132,058	361,487,830	6,644,228
未収金	445,321,377	443,283,963	2,037,414
その他	32,944,318	33,584,673	△ 640,355
固定資産	7,167,025,799	7,020,185,111	146,840,688
基本財産	1,100,217,893	1,179,408,823	△ 79,190,930
その他の固定資産	6,066,807,906	5,840,776,288	226,031,618
資産の部合計	8,013,423,552	7,858,541,577	154,881,975
負債の部			
流動負債	185,425,848	276,938,758	△ 91,512,910
固定負債	260,037,551	260,691,261	△ 653,710
負債の部合計	445,463,399	537,630,019	△ 92,166,620
純資産の部			
国庫補助金等特別積立金	76,152,238	86,389,191	△ 10,236,953
その他の積立金	0	0	0
次期繰越活動増減差額	7,491,807,915	7,234,522,367	257,285,548
純資産の部合計	7,567,960,153	7,320,911,558	247,048,595
負債及び純資産の部合計	8,013,423,552	7,858,541,577	154,881,975

令和６年度　事業活動収支計算書

自令和６年４月１日　至令和７年３月31日　　（単位：円）

勘　定　科　目	当期残高	前年同月	増　　減
【サービス活動増減の部】			
障害福祉サービス等事業収益	988,052,885	965,772,970	22,279,915
医療事業収益	1,441,528,075	1,439,130,883	2,397,192
不動産貸付事業収益	3,093,000	3,078,000	15,000
その他の収益	5,214,371	5,007,000	207,371
経常経費寄附金収益	441,206	320,622	120,584
サービス活動収益計(1)	2,438,329,537	2,413,309,475	25,020,062
人件費	1,534,684,738	1,507,920,650	26,764,088
事業費	412,112,799	392,456,424	19,656,375
事務費	162,266,288	147,789,236	14,477,052
減価償却費	137,770,367	118,848,879	18,921,488
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 11,176,953	△ 10,229,647	△ 947,306
サービス活動費用計(2)	2,235,657,239	2,156,785,542	78,871,697
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	202,672,298	256,523,933	△ 53,851,635
【サービス活動外増減の部】			
受取利息配当金収益	41,274,053	39,258,536	2,015,517
その他のサービス活動外収益	10,717,113	6,788,784	3,928,329
サービス活動外収益計(4)	51,991,166	46,047,320	5,943,846
支払利息	78,000	48,000	30,000
その他のサービス活動外費用	296,900	5,001,440	△ 4,704,540
サービス活動外費用計(5)	374,900	5,049,440	△ 4,674,540
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	51,616,266	40,997,880	10,618,386
経常増減差額(7)=(3)+(6)	254,288,564	297,521,813	△ 43,233,249
【特別増減の部】			
施設整備等補助金収益	940,000	6,955,000	△ 6,015,000
固定資産受贈額	447,000	0	447,000
事業区分間繰入金収益	0	0	0
拠点区分間繰入金収益	2,550,000	4,201,400	△ 1,651,400
拠点区分間固定資産移管収益	0	13,450,000	△ 13,450,000
サービス区分間繰入金収益	0	0	0
固定資産売却益	0	0	0
その他の特別収益	0	254,100	△ 254,100
特別収益計(8)	3,937,000	24,860,500	△ 20,923,500
固定資産売却損・処分損	15	2,953,346	△ 2,953,331
国庫補助金等特別積立金取崩額（除却等）	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	940,000	6,955,000	△ 6,015,000
サービス区分間繰入金費用	0	13,450,000	△ 13,450,000
拠点区分間繰入金費用	1	0	1
その他の特別損失	0	2,747,672	△ 2,747,672
特別費用計(9)	940,016	26,106,018	△ 25,166,002
特別増減差額(10)=(8)-(9)	2,996,984	△ 1,245,518	4,242,502
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	257,285,548	296,276,295	△ 38,990,747
【繰越活動増減差額の部】			
前期繰越活動増減差額(12)	7,234,522,367	6,938,246,072	296,276,295
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	7,491,807,915	7,234,522,367	257,285,548
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	0	0
その他の積立金積立額(16)	0	0	0
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	7,491,807,915	7,234,522,367	257,285,548

令和7年度　家族会・守る会分会

令和７年度総会が無事終了し今年度の活動が始まりました、 昨年度守る会は 創立60周年となり今年度は県支部総会が30回目となります。

長岡療育園守る会分会の総会は今年度で35回でした。 県支部発足するまでの間長岡療育園守る会分会は準支部として守る会の活動を行ってきました。

我が子を守る為に先人の皆様がやってきた活動です。 これからも活動が続く事を願い会長を務めさせて頂きますので、 会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

長岡療育園家族会 ・ 守る会長岡療育園分会　会長　星 名　紀美子

４月12日に家族会総会を開催し、 55名のかたに出席いただきました。 多くのかたの出席ありがとうございました。

総会終了後は会員のみなさんとお弁当を食べながら懇談しました。 久しぶりに近況を話したりと盛り上がりました。

令和７年度役員のみなさんです。 １年間よろしくお願い致します。
今年度の活動内容については総会資料をご覧ください。

◇ 令和６年度　学会発表･園内研究 ◇

学会・研究会発表

第49回日本重症心身障害学会学術集会　　Ｒ６年11月８日・９日　兵庫県神戸市

・電動移動器機を使い心身機能向上を目指したアプローチ
　○田中香奈

・歯茎の炎症が見られる方に対する口腔ケアの取り組み
　○田中美月　庭野勇太　平澤友子　田中友紀子　布川加寿美　新保雄一　小宮貴恵
　　五十嵐美苗　関貴子

第35回重症心身障害療育学会学術集会　　Ｒ６年10月３日・４日　福岡県北九州市

・重症心身障害者の高齢化に伴う身体機能・知的発達の推移の検討
　○阿部瑞保　高野知子　本多葉月　栗原朱美　浅見由佳子　宮沢潤一

第27回全国重症心身障害日中活動支援協議会　　Ｒ６年10月10日・11日　愛媛県宇和島市

・児童発達支援事業・放課後等デイサービスの保護者の悩みを知る～座談会を開催して～
　○横山恵子　橋本奈津美　諸橋佳奈　佐藤幸男　山浦智恵　佐藤美香　中村享子　小師麻美
　　小林寛尚　熊倉直美　伊藤恭江　小林諭司

日本重症心身障害学会学術集会
でのポスター発表

全国重症心身障害日中活動支援協議会
での発表

園内研究

1）風間佳代子　中村美沙穂　長谷川恵　米山恵理香 重症心身障害児におけるターミナルケアの実践
2）岩田亜紀江　中野孝二　森路子　梅原万里　高橋のぞみ 足湯を実施してサーモグラフィーで見る下肢の温度変化
3）内山素子 看護職の重症心身障害児者の療育に対する意識調査
4）小島さくら　小川景子　金箱翔太　諸橋龍樹　髙橋裕子 気管切開、呼吸器管理となった学齢児のスクーリングの再開に向けた家族支援
5）前田美由紀　関貴子 ２病棟入所者のてんかん発作と非てんかん発作の判別
6）小林諭司　佐藤美香　佐藤唯　橋本奈津美　諸橋佳奈　横山恵子 横地分類 A4 に対する療育活動実践報告
7）田中遥　本間延江　佐藤翔太　我伊野綺星　関貴子 尿路結石を有する、または尿路感染症を繰り返す利用者に対し強酸性水を使用した 膀胱洗浄による効果
8）田中美々　酒井綾　酒井遥斗　石原愛美　小熊充子　栗原朱美　小宮貴恵　関貴子 山澤良治 ２病棟における身体拘束解除に向けた取り組み
9）桑原達也　関口遥香　青柳徳和　下条智子 慢性便秘に対する腹部マッサージと温罨法の効果
10）田中隆文　安藤佳代子　関愛　山岸祥子　保坂麻祐　布川加寿美 経口摂取への拒否が強い入所者への関わり
11）杉田博之 モビコール配合内用剤 LD 採用前後の緩下剤の使用状況について
12）浅井陽子　柳田君枝　小林友子　佐藤昌子　髙橋淳　榎本武史　若林和幸　田上麻美 陽田直美　松田純子　水落貴子　小林まどか ケアステーション魚沼における防災対策　～事業所・家族の自助力を高める～

寄　　贈

＜令和６年度＞

小畑　里美　様
吸引機
スマイルケアＣ

悠久崇徳学園　様
レールダル
レサシアン３式

長岡蒼柴ライオンズクラブ　様
楽器一式

長岡療育園　重症心身障害児者を守る会　分科会　会長：星名　紀美子　様
蓄電池・蓄電池用バッテリー（長岡療育園、CS魚沼、CS県央）

素敵な音色の楽器です

外出時、災害時にも役立つ
ポータブルバッテリーです

ボランティア

＜令和６年度＞　※順不同

五十嵐　フミエ様　　池田　シゲ子様　　時田　順子様　　成保　房子様

崇徳厚生事業団の基本理念

「自分や家族、友人が利用したい
と思うサービスの提供」

長岡療育園のモットー

- 「障害とともに生きる子供たちの命の輝き
(QOL)を大切にしたい」
- 「根拠に基づいた医療と療育の提供」
- 「障害者の笑顔を求めて、大切にして」
- 「家族会と療育園は車の両輪」
- 「明るく、安全で、安心できる施設を目指して」

編集委員

鍛治山　洋　泉澤　恭子　淺田佳奈子　小宮　野花　田中友紀子　酒井　遥斗
山崎　仁美　石原　愛美　田中　亮佑　星田　佳央　中澤　彩

DOSHIN　No. 79　令和７年７月４日　社会福祉法人　長岡福祉協会　長岡療育園・こども発達センター　編集・発行

〒940-2135　新潟県長岡市深沢町字高寺2278-8　代表 (0258) 46-6611　FAX (0258) 47-3535　ホームページ https://www.nagaryo.or.jp/　Eメール nryou@nagaokafk.com